



1. 気象概況（中野市長丘地区気象ロボット観測データによる）

旬別 月間	上旬		中旬		下旬		月間		コメント
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
5 月平均気温（℃）	15.6	13.8	16.9	14.1	18.5	16.4	17.1	14.8	月間平年比+2.3℃（最高+3.6℃）
5 月降水量（mm）	13.5	17.8	35.0	17.5	0.0	29.8	48.5	65.1	月間平年比 74.5%（下旬観測なし）
5 月日照量（h）	80.0	69.9	81.0	60.8	111.7	76.6	272.7	207.3	月間平年比 132%（下旬 100 時間超え）

- 4 月上旬は最高気温が 15℃以上（4/3 に 24.9℃、4/4 に 22.1℃）を 4 日観測し、平均気温は平年比+2.4℃、最低気温が平年比+4.2℃等高温で経過した。また、降水量も平年比 106%（4/1 に 6.5 mm、4/6～8 に合計 8.0 mmの降雨量を観測）と 3 月下旬から続いた土壌乾燥状態は解消された。尚、曇天の日が多く、日照時間は平年の 4 割弱と非常に少なかった。
- 4 月中旬は、低日照・曇天が顕著であった。降水量は平年の 312%と非常に多く、日照量は平年の 50.3%と上旬に続き極端に少なかった。果樹類の開花前に当たる 4 月上中旬の合計日照量は平年の 44%と記録的に少なく、進んでいた果樹類の生育が停滞する要因となった。また、日照不足による欠乏症状が心配される。
- 4 月下旬は平均・最高気温が平年を大幅に上回った。（平年平年比+3.0℃、最高平年比+5.4℃）降水量は平年の 30%と非常に少なく、土壌乾燥が著しかった。晴天の日が多く日照量は 154%と非常に多かった。（異例の 100 時間超え）
- 4 月は、平均気温が上旬・下旬が平年より大幅に高く、月間では平年比+2.0℃高く経過した。降水量は、中旬が曇天の連続であったため特異的に多く、平年比 140%で経過した。日照量は、下旬が非常に多く経過したが、上中旬が平年の半分以下であったため月間では平年比 82%にとどまった。
- 5 月上旬も高温・乾燥が続いた。4/27～5/7 まで最高気温が 11 日間連続夏日を観測。加えて、この期間に最大 10m/s 以上の強風を連日観測。5/4～6 にかけて、約 2 週間ぶりの降雨を観測し極度の土壌乾燥状態は解消された。（5/1 25.6℃、5/2 29.4℃、5/3 27.3℃、5/4 27.9℃（最大 13.5m/s）、5/4～5 合計 10.0 mm）月間の降水量は平年の 76%、月間の日照量は平年の 114%で経過した。
- 5/11 早朝に 1.8℃の低温を観測。5/12～13 に台風 6 号が接近し、強風と雨（夜半～明け方）を観測。（5/12～13 合計 9.0 mm、5/12 12.4m/s、5/13 11.3m/s）台風通過後は夏日が続いている。最低気温も 10℃以上で生育が促進されている。
- 5/15 に今季最高の 31.4℃を観測。また、5/16 に 8.5 mm、5/18～19 にかけて合計 17.5 mmのまとまった雨を観測。
- 5 月中旬も最高気温が 6 月中旬並みで推移した。平均気温が平年比+2.8℃（最高+4.5℃、最低+2.3℃）と平年より大幅に高く推移した。また、降水量は、まとまった雨の日もあり、平年の 2 倍となった。心配された極度の土壌乾燥状態はある程度解消された模様。尚、晴天続きで、日照量は平年の 133%で経過した。
- 5/20 に 15.2m/s、5/21 に 13.6m/s の強風を観測。新梢の欠損等発生。5/25 30.3℃、5/28 30.1℃、5/29 30.3℃。
- 5 月下旬も最高気温が 7 月上旬並みで経過した。（平均気温は平年比+2.1℃、最高は+3.9℃）また、降水量の観測はなく高温乾燥状態が顕著であった。日照時間は 4 月下旬以来の 100 時間越えとなった（平年比 146%）。
- 5 月は最高気温 25℃超えが 22 日と過去最多を記録する等気温帯は 6 月並みで経過した。降水量は中旬が平年を上回ったが、月間では平年比 74.5%と少雨で経過した。日照時間は下旬が 100 時間超えする等、対比 132%と平年を大幅に上回った。尚、風速 10m/s 以上が 20 日と特に午後に強風も多かったのが特徴的であった。

2. 品目別生産の経過・病虫害発生状況・今後の対策

🌟 りんご

- ・ 4月下旬の高温で開花まで満開まで一気に到達。南部で 4/28、平岡で 4/29 頃、岩井沖でも 5/2 頃確認。昨年より 4～5 日早い。
- ・ 腐らん病が蔓延している。枝単位の病斑も目立つ。発生程度は平年より多く、発生時期も早い。
- ・ 5月の高温乾燥によりうどんこ病の発生が目立つ。つがる・紅玉等で多い状況。
- ・ マイマイガの幼虫の食害が目立つ。特に幼木では大型害虫により食害が多い。
- ・ 中生品種の肥大は比較的良好。生産量もほぼ昨年並みの予想。
- ・ ふじはカラマツや肥大不良が目立つ。全体の生産量は昨年をやや下回る見込み。(昨年対比 95%) 尚、高温による生育の進みと中旬の降雨により中心果の肥大は昨年より良い。
- ・ 定植後の土壌乾燥で、苗木の枯死が多い。また、幼木の発芽不良も目立つ。梅雨に入るまでは定期的なかん水を行う。
- ・ 黒星病の葉病斑が一部で散見される。4月中旬頃の感染とみられる。現状、果実被害はない模様。

🌟 もも・ネクタリン

- ・ ハウスもも（1 件） 日川白鳳満開：2/24、初出荷：日川白鳳 5/8、紅国見 5/19。
- ・ ネクタリンは吉田地区で 4/20、平岡地区で 4/21 で満開を確認。もも白鳳は日野地区で 4/20、高丘地区(草間沖)で 4/21、平岡地区で 4/23 頃満開を確認。昨年より 5～6 日程度早い状況。開花期間は平年より長い傾向であった。また、品種毎の生育差もやや大きい傾向であった。
- ・ 開花期前後の低温・降雨・強風によりせん孔細菌病の早期多発が心配される。当面は薬剤散布間隔 10 日と枝病斑の切除を併用し、菌密度を高めない対策を講じる。
- ・ 縮葉病の発生が目立つ。発芽直後に感染したものと見られる。アブラムシ類の被害葉散見。定期防除により対応。
- ・ 幼木・若木（7～8 年生）の枯死、開花期以降の樹勢衰弱が散見される。(あかつき・なつっこ・スイート系ネク中心)

🌟 ナシ類

- ・ ラフランス老木樹で腐らん病が多い。発生程度は平年より多い。至急、病斑部の削り取り処理等を実施する、
- ・ 満開は南水で 4/26 頃（田麦沖）、ラフランスで 4/27 頃（田麦沖）確認。昨年より 4～5 日早い。受粉作業も順調に実施できた模様。
- ・ ラフランスの結実良好で一定の結実量を確保できた模様。全体の生産量は昨年比 105%を見込み。
- ・ 南水の結実は一定の結実量を確保できた模様。一部結実不良園もあるため、全体の生産量は昨年比約 95%を見込む。
- ・ 5月の強風等で、果実にスレ等が多い。結実量を加味して、程度のひどい果実は摘果で除去する等の対策をとる。

🌟 プラム・プルーン

- ・ 太陽 4/16 満開（昨年比－9 日）。開花期間は 15 日と平年より 3～4 日長かった。
- ・ 主力の貴陽・太陽は昨年より結実量が少ない状況。開花期の曇天により人工授粉が満足にできなかったことや受粉樹との開花差異が影響しているとみられる。大石・紅・ソルダム・秋姫の結実量は昨年並み。（貴陽 30 t、太陽 90 t、秋姫 75 t 予想）
- ・ 静香、大石他にふくろみ病の発生が多い。越冬菌の多さと開花期の降雨で感染したと見られる。生産量に影響する園もあり。
- ・ 5月中旬からシンクイムシ類の越冬世代の発生。速効性・残効性が高い合ピレ剤等で密度を減らす対策をとる。

🌟 加温サクランボ・露地サクランボ

- ・ 3/22 初出荷。5/10 時点：出荷者 14 名、数量 9,164kg（前年対比 81%）、単価 7,183 円（前年対比 108.6%）
- ・ 3月下旬～4月初旬の高温により、成熟が進み前進出荷となった。4月中下旬の低日照・曇天により、ハウス内多湿となり灰星病、花腐れ、果実の委縮（シワ）等が多発した。併せて微量要素欠乏症状により落果、変形果が多発した。
- ・ 大型連休中の高温で、収穫前の品種にうるみ果、裂果の発生が多く、減収の要因となっている。
- ・ 露地の結実状況は園地間格差が大きい。主力の佐藤錦の結実不足も目立つ。

3. 果樹類生育調査

平年値は過去 10 年の平均

🌸 りんご ふじ（調査地点：平岡若宮）

年度	発芽	展葉	開花	満開	落花	開花期間	（発芽日）果樹試 エゾノコリンゴ
平年	4／4	4／15	5／2	5／5	5／11	9	2／14
H25	4／1	4／9	5／2	5／6	5／13	11	2／14
H26	4／3	4／15	5／2	5／3	5／10	8	2／20
H27	3／31	4／8	4／27	4／29	5／4	7	2／8

🌸 もも 白鳳（調査地点：平岡若宮）

年度	発芽	展葉	開花	満開	落花	収穫	満開～収穫
平年	4／2	4／23	4／22	4／27	5／4	8／2	98
H25	3／28	4／19	4／18	4／25	5／7	8／3	100
H26	4／2	4／24	4／23	4／29	5／5	8／2	97
H27	3／31	4／18	4／18	4／23	5／1	8／1？	100？

🌸 和梨 南水（調査地点：長丘田麦）

年度	発芽	展葉	開花	満開	落花	収穫	満開～収穫
平年	4／8	4／24	4／27	5／1	5／7	9／23	146
H25	4／5	4／23	4／25	4／29	5／6	9／16	140
H26	4／10	4／24	4／26	4／30	5／6	9／18	141
H27	4／3	4／24	4／24	4／26	5／1	9／18？	145

🌸 西洋梨 ラフランス（調査地点：長丘田麦）

年度	発芽	開花	満開	落花	収穫	満開～収穫
平年	4／7	4／28	5／1	5／7	9／30	153
H25	4／4	4／26	4／30	5／6	9／29～	152
H26	4／9	4／27	5／1	5／6	9／27～	149
H27	4／2	4／25	4／27	5／1	9／24～？	150

🌸 プラム 太陽

年度	発芽	開花	満開	落花
平年	3／25	4／16	4／23	4／28
H25	3／22	4／13	4／18	4／24
H26	3／30	4／17	4／25	4／29
H27	3／22	4／12	4／16	4／27

幼虫移入期のマイマイガの緊急防除対策について

大型連休過ぎからマイマイガの幼虫が大型化し、葉の食害が増えています。高温・乾燥で経過しているため、今後も断続的な発生が心配されます。被害が大きい園（樹）では特別散布を実施してください。詳しくは下記をお読みください。

1. 現在の生育ステージ・被害状況他
- 幼虫移入期

● 体長 2 cm以上

● 幼虫が大型化し、摂食量も増えているため、葉に大きな穴をあけます。特に若木や定植初年度の幼木では被害が大きい状況です。
2. 薬剤防除について（下記の薬剤は全て JA で取り扱っています）

効果薬剤：合成ピレスロイド剤、ネオニコチノイド剤（下表参照）

山林等で大型化した中齢幼虫が果樹園に盛んに移入し、短期間に多大な被害をもたらしている場合は、速効的でかつ残効の長い合成ピレスロイド剤を使用してください。

薬剤名	希釈倍率	適用
モスピラン顆粒水溶剤（ネオニコチノイド系）	2,000～4,000	果樹類・野菜
バリアード顆粒水和剤（ネオニコチノイド系）	2,000～4,000	果樹類・野菜
アディオンフロアブル（合成ピレスロイド系）	1,500	果樹類
アディオン水和剤（合成ピレスロイド系）	2,000	果樹類
アーデントフロアブル（合成ピレスロイド系）	2,000	果樹類
アーデント水和剤（合成ピレスロイド系）	1,000	果樹類・野菜
トレボン乳剤（合成ピレスロイド系）	1,000～2,000	野菜・樹木類

◆ 注意事項

- ① 不明な点は、担当技術員までお問い合わせください。
- ② 上記以外の薬剤を使用する場合は、担当技術員までお問い合わせください。
- ③ 定期散布や特別散布を実施する場合は、年間の使用回数制限に注意してください。
- ④ 各農薬使用の際は、ラベル等をよく確認し、使用規制・回数等を遵守してください。

アメリカシロヒトリの防除対策について

5月中旬からアメリカシロヒトリの越冬世代が発生しています。下記を参考にして、密度が高くなる前から計画的に防除を進めてください。尚、地域によっては効果が著しく低下している薬剤もありますのでご注意ください。

3. 防除時期

- ① 若齢幼虫期に防除するのが最も効果的。
- ② 老齢幼虫になると発生密度が高くなり、葉を暴食するので薬剤による防除は困難になる。
- ③ 孵化直後の幼虫は巣網を張って群生し、葉脈を残して葉を食べるため、被害葉は透けてみえる。次第に巣網は大きくなり、目につきやすくなり、その後、幼虫は分散する。

以上の特性から3段階に分けて防除することが効果的である

- ・ 越冬世代幼虫…5月中旬～6月上旬頃発生
- ・ 第1世代幼虫…6月中旬～7月上旬頃発生
- ・ 第2世代幼虫…8月上旬～9月上旬頃発生

4. 薬剤防除について（下記の薬剤は全てJAで取り扱っています）

時期	薬剤名	倍率	適用
5月中旬～ 6月上旬	フェニックスフロアブル（ジアミド系）	4,000～6,000	果樹類
	サムコルフロアブル 10（ジアミド系）	2,500～5,000	果樹類
	モスピラン顆粒水溶剤（ネオニコチノイド系）	2,000～4000	果樹類・野菜類
	バリアード顆粒水和剤（ネオニコチノイド系）	2,000～4,000	果樹類・野菜類
6月中旬～ 7月上旬	スミチオン水和剤 40（有機リン系）	1,000	果樹・野菜・樹木
	ダイアジノン水和剤 34（有機リン系）	1,000	果樹・野菜・樹木
	ディアナ WDG（スピノシン系）	5,000～10,000	果樹類
	ディアナ SC（スピノシン系）	2,500～5,000	野菜類・花き類
	アディオンフロアブル（合成ピレスロイド）	1,500	果樹類
	アディオン水和剤（合成ピレスロイド）	2,000	果樹類
	トレボン乳剤（合成ピレスロイド）	1,000～2,000	野菜類・樹木類
8月上旬～	バイスロイドEW（合成ピレスロイド）	2,000	果樹類
	アディオンフロアブル（合成ピレスロイド）	1,500	果樹類
	アーデントフロアブル（合成ピレスロイド）	2,000	果樹類
	イカズチWDG（合成ピレスロイド）	1,000	果樹類
	アーデント水和剤（合成ピレスロイド）	1,500	果樹類・野菜類
	トレボン乳剤（合成ピレスロイド）	1,000～2,000	野菜類・樹木類

◆ 注意事項

- ① 有機リン系のダイアジノン水和剤やスミチオン乳剤だけでは、効果が発現しにくい場合もありますので、ジアミド系殺虫剤（フェニックス F やサムコルフ他）も併せて使用すると効果的です。
- ② 多発時（盛夏期）は薬剤効果が著しく低下するので、その場合は速効的かつ残効が長い合成ピレスロイド剤を使用してください。
- ③ 定期散布や特別散布を実施する場合は、年間の使用回数制限に注意してください。
- ④ 各農薬使用の際は、ラベル等をよく確認し、使用規制・回数等を遵守してください

🌸 品目別薬剤防除（5月下旬～6月上旬）

開花が早かったため、定期防除日程も昨年より4～5日程度前倒しになっています。5月の記録的高温で主要害虫の発生密度も高まっているので早めの散布を徹底してください。

🌸 りんご

散布時期：6/1～7

散布薬剤

- アントラコール顆粒水和剤 500 倍（黒星病）
- スプラサイド水和剤 1,500 倍（シンクイムシ類、カイガラムシ類他）

＊ナシマルカイガラが発生園はアプロードフロアブル 1,000 倍を加用。

🌸 もも

散布時期：5/30～6/4

散布薬剤

- デランフロアブル 1,000 倍（せん孔細菌病）
- アルバリン顆粒水溶剤 2,000 倍（モモハモグリガ、アブラムシ類他）
- マイコシールド 1,500 倍（せん孔細菌病）

＊前回から 10 日以内に散布する。

🌸 和梨・西洋梨

和梨

散布時期：6/5～10

散布薬剤

- ロブドー水和剤 1,000 倍（黒斑病他）
- サイアノックス水和剤 1,000 倍（シンクイムシ類他）

＊カイガラムシ類の発生園は、アプロードフロアブル 1,000 倍を加用する。

西洋梨

散布時期：6/5～10

散布薬剤

- ダースバン DF3,000 倍（シンクイムシ類）
- オキシラン水和剤 500 倍（輪紋病他）

＊カメムシ類の発生園は、ダースバン DF に代えて、アルバリン顆粒水溶剤 2,000 倍を使用する。

🌸 プラム

散布時期：5/30～6/10

散布薬剤

- イカズチ WDG1,500 倍（シンクイムシ類）
- ダースバン DF3,000 倍（シンクイムシ類類他）
- マイコシールド 1,500 倍（黒斑病）

＊前回から 10 日後に散布する。

🌸 露地・雨よけサクランボ

散布時期：5/26～6/1

散布薬剤

- フルーツセイバー1,500 倍（灰星病他）
- ディアナ WDG3,000 倍（ショウジョウバエ他）

＊カメムシ類（スリップス）の発生園は、アルバリン顆粒水溶剤 2,000 倍を特別散布する。

平成 27 年度果樹類の苗木助成措置について

下記の表は現段階の予定です。参考にしてください。

品目名	品種名（台木種他）	助成割合（%）	要件他（導入面積・本数他）	活用事業名
りんご	百年ふじ （台木種類：丸葉・J M）	30	1 本から可	市単（中野市）
	長ふ 12 （台木種類：丸葉・J M）	30	1 本から可	市単（中野市）
	らくらくふじ （台木種類：丸葉・J M）	30	1 本から可	市単（中野市）
	赤色果肉品種 （台木種類：丸葉・J M）	20	1 本から可	J A 研究開発
	わい化栽培用施設（資材）	20	支柱・固定線他	J A 研究開発
もも	秘味黄金・白鳳 あかつき・なつっこ 川中島白桃・黄金桃 白根白桃・G P	30	- 導入面積 5a 以上 - 購入本数 10 本以上	園芸特別対策
ネク	サマークリスタル ファンタジア 秀峰	30	- 導入面積 5a 以上 - 購入本数 10 本以上	園芸特別対策
ぶどう	シャインマスカット ナガノパープル クイーンニーナ 巨峰	30	1 本から可	市単（中野市）
果樹類 ＊①	改植後 りんご・もも 梨・ぶどう サクランボ・柿・プラム くり・梅・キウイ F 他	定額 16 万円／10a	2 a 以上 5 a 以上 5ha 未満の場合 未収益期間支援 20 万円／ 10 a	果樹経営支援対策 （国庫）
果樹類	改植後 りんご新わい化栽培 梨等ジョイント栽培	定額 32 万円／10a	2 a 以上 5 a 以上 5ha 未満の場合 未収益期間支援 20 万円／ 10 a	果樹経営支援対策 （国庫）

注意事項

- ① 改植後の品目（栽培方法）が何であるかによって助成内容が変わります。
- ② 27 年度果樹支援対策事業は新植の場合でも、事業費の 1/2（5a 以上の場合は未収益期間支援 20 万円／10a）定率補助の対象となる見込みです。
- ③ 27 年度果樹支援対策事業の新植の対象品種は一定の要件が付く見込みです。（種苗法、栽培実績他）
- ④ 27 年度の取りまとめは 7 月頃を予定しています。